三十日夕刊

磐城毎日新聞

□本紙一ヶ月金六十錢
□郵稅金十五錢
□一部賣金三錢
□廣告料一行金六十錢
□特殊欄金九十錢
□場所指定一行金一圓増
□電話（平）七八六番
□振替口座東京一〇八・五六五
福島縣平市田町十六番地
發行所　磐城毎日新聞社
發行兼編輯印刷人　森合英

事窮まり勢蹙るの人は常に其初心をたづねべし功成り行滿つるの士はその末路を觀ん事を要す　（菜根譚）

閼伽井嶽

戊辰の回顧

味岡三伯

戊辰の回顧日が近づいた。燈臺下暗しと云ふが我々は近い物には目がきかぬ飲點がある。戊辰戰死者の墓等知らぬ者が多い。戊辰の役は日本國が新世代に對する前處置として内的統一を完遂した事に外ならぬのでこれあつて初めて今日の世界的日本の基礎が出來たのである。地方としてみればこの苦難を經て初めて石城が國内統一に列し得たのだ。故に戊辰戰は石城が更生の爲の武者震ひであり生れ出づる惱みなので戊辰戰死者は順逆いづれにせよ維新大業の人柱たる事に變りはない。だから我々は理屈で石城武士を駄目にして了はずに人情を以て鄕士の更生の息吹きの過程を再認識したいものである。殊に平藩士の中には平落城を見て切腹自殺せる者三人を數へてゐる、その壯烈なる吾人の耳朶を打つものがある、又平藩は一度は官軍に勝ち遠く之を小名濱へ追拂ひ凱歌を上げたのである官に對する抵抗の罪を大にしたかも知れぬが愛鄕人情から見れば平武士の痛快これに過ぎたものはない。

現に戊辰戰鬪係者の墓は各所に散在してゐる。代表的のものは良善寺にあるが小島の碑等は顧られる事少い、此際之等を一括して顯彰する必要がある。又平市民たる者は常に戰死者の墓に敬意を表する樣にしたい、學童は年一回必ず參拜すべく而して今一度戊辰の意義を考へて見ようではないか。

青沼鉾太郎氏の言へる『凡そ生を神洲に稟けし者誰か勤王の心あらざらん。順逆の義成敗を以て論ずべきに非ず況んや其の藩士の難に甦れし者は一意主恩に報じ節義に殉ずるの至情に出で身後の榮を顧みざりしもの眞に我が士道精華の發揚なり』と、蓋し眞の言葉であらう。

戊辰戰爭

平城攻略　（二）

藤原廣

七月一日の早朝官軍は湯本街道からと小名濱街道からの二手に分れて愈平城に迫つて來た。湯本街道から進んだ、官軍は長橋に近づいた、村岡莊太郎の二小隊、牛田與理之助、小崎大之亟の投機隊（遊擊?）及び相藩が尼子橋をへだてゝ防戰し援兵の米澤元込隊も（元込銃を持つ）疊を楯にして奮戰大いに官軍を悩ました。

早朝嚮導（平藩から出た案内役）を先に立て米澤藩の兵が城坂門から愈戰爭の警備につかうとしてゐる所へ、息せき切つて南方谷川瀨の方へ出しておいた斥候が戻つて來た。その報告に依ると、敵は軍治山を襲ひ、谷川瀨に現はれ、城の南西を攻擊しようとしてゐるといふので、米澤藩の各隊はその報告にもとづいて直ちに隊を新川の北、市街の裏通りの線に添うて東に町分村西は長橋村の間に配置隊長山吉源右衛門はその中間菩提院境内の杉の木の間に立つて鎗を揮つて兵を指揮した、とかうしてゐる中に果して官軍は谷川瀨の丘下に現れ先づ野戰砲を以て遠距離から攻擊し續いて銃手が古川に沿うて散開し、敵味方僅かに四町餘を距てるのみとなつた。平藩士及純義隊のものも各所に散じて防戰大いにつとめた、また城内からは追手門の石火矢臺砲臺からは六斤砲を放つて大いに味方の氣勢を助け、八ツ棟、三階櫓及稻荷臺等の高台からは榴彈を浴ぜ、揚土台からは和銃二百目三百目のものを亂射、平地を進んで來る官軍を狙ひ射にしたので正に硝煙濛々砲聲殷々として、彈丸は雨霰のやうであつた。かうしてゐる中に正午になつた、暫くする中官軍は谷川瀨からの大砲の掩護射擊に依つて、城兵を制壓しつゝ勇敢にも彈丸を犯して水田の畦を通つて進んで來る。見てゐる中に新屋敷に進入してしまつた、間もなく官軍の放つた火に依つて新川町に火災が起つて黒煙天に沖し猛火はだん〳〵擴大してゆく、官軍は之に乘じて一擧に城を屠らうとしてしやにむに城をめがけて進んで來た。米澤藩の軍監若林宗太が此有樣を目擊して城内に歸つて來て援兵を求めたがもとより城内には平藩の銃手は最早一人もゐない、仕方がないのでそこにあつた仙台兵の銃手を無理に出動させ自分は短かい鎗を持つて城の裏門を守り、銃手等が勝手に城内に逃げ込んで來るのを禁じた。此時平藩の上坂綱長は城坂門外にあつて全軍の指揮にあたり參政中村茂平は城内にあつてそこにある兵に鯨波の聲をあげさせて城外にあつて戰つてゐるものを激勵したので、城外の兵も之に應じ喊聲をあげたのでその萬雷のやうな聲はまだ城の中には數千人の兵がゐるやうに思はれる程であつた。

映畫評

〃曉の合唱〃雜感

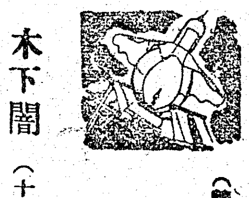
城木伊佐緒

「往々映畫觀客が原作ではこう云ふ筋であつたが、この映畫は少しも原作に忠實でなく、筋の違ふ所がある等と云ふことを聞くが、こうした批評は映畫の本質を理解してゐない人の言である」と云ふやうな意味の事をいつか書いたことがあるので今更こんな事を云ふのは多少氣がひけないでもないが、先週の〃曉の合唱〃を見て、原作に忠實でない所ではく全々原作の跡形もなく原形の冒瀆も甚しいのにあきれてしまつた。原作も全然讀んでゐない人があれを見たなら横手と云ふ町（秋田縣）はよほど東京に近い所と妙な錯覺にとらはれたに違ひない、乘客の言葉と運轉手達の都會的な言葉の甚しい驪違に、更に戸迷ひした事であらうと思ふ。

〃曉の合唱〃は或婦人雜誌に連載になつた長篇小説でかなり受けたものであり、それが映畫化されたので、大概好奇心で觀に行つて、大抵ウンザリしてしまつたことであらうと思ふ。第一、あれだけの長篇小説を脚色するのに無理がある、無理を押して作つたものだけにツギハギだらけで、シドロモドロである。更に又配役が失敗であり、主役とも云ふべき三郎の近衛敏明に至つては甚しいミスキャストである。三郎と云ふ人間の性格は朋子と云ふ女性に云はせると「品行が惡くて、意志が薄弱で、虚榮を飾り、獨立心が乏しく」都會的な洗練された神經の持主であるのに、あれではお人好しで、愚鈍な無神經な人間で三郎の性格とは似てもつかぬ人間である、佐分利信の浮田にしろ、浮田の内面的な性格を現すこれぞと取り立てる好演技がなく、木暮も又失敗であり朋子は田舍出の内に藏する情熱を制御しきれない一見危險性のある、モリ〳〵した逞しい少女であるのにあれでは都會育ちで苦勞知らずのお孃さんの何かのはづみで自動車ゴツコをしてゐるやうである。いづれにしても余り感心しない映畫であつた、

原稿募集

本紙第一面の各原種稿を募集する、奮つて御投稿下さい。



異人劍法

（禁無斷轉載上演上映）【69】

車谷弘
下山望東畫

木下闇（十）

『平馬つ』

とその顏を、憤怒に燃えたその双眸を、冷やかに、ぢつと見つめて、

『しばらく見ぬ間にいかう痩せて……氣の毒な、大分苦勞をしたと見える』

『默れつ』

平馬は血が逆流してゐるのだつた。

『おのれを、おのれを探し求めてどんなに心魂をくだいたか、鶴屋で兄を討たれた夜不覺にもおのれを取逃がして以來、今日までの艱難辛苦、假令天に翔水を潜らうとも探し出して、兄の妄執が晴らしたさに、拙者はあらゆる憂き苦勞を堪へ忍んだぞ。おのれ、おのれつ……』

平馬は沸きたつ激情にかられて口惜さうにいつか涙さへ泛べてゐた。

カツと、濡れ輝いた瞳をみはつて、新九郎を睨みつけて、

『長谷つ』

涙に咽んだ、それは悲痛な調子だつた。

『いつぞや、いつぞやも江戸川の川べりで、卑怯にも不意に拙者に闇討をかけたのは、おのれであらうが……』

新九郎は首をふつて

『いゝや知らぬ』

『その方の横尾敬助を斬つたのは、確にこの新九郎だが、その方を闇討つたのも、酒の上とは云ひ乍ら武士の意地づく、新九郎そんな卑怯な男ではない。血迷つたな、平馬つ』

『云ふなつ、卑怯でなくば何で逃げた。何で鶴屋を逃げ出したのだ』

『はゝゝゝ、返り討ちにするのは雜作もないが、それも不愍の未熟な腕を磨くまで、立ち合をのばしたのが、平馬、その方には分らぬかつ、拙者せめてもの志しが、その方には分らぬのかつ。まだ〳〵未熟なその腕で、この新九郎を、敵呼ばりは片腹痛いぞ』

『なにつ』

思はず刀の柄に手をかけようとして、ハツと無腰に氣がついて、平馬はあわてた。

うろたへて、逆上して、滿面に朱をそゝいで、

『おのれ、不倶戴天の兄の仇、刀をとつて參るまで、卑怯に逃げかくれいたすまいぞ』

『安心せい平馬、拙者この家のおもてにいつ迄も待つてゐようゆつくりと仕度をして參るがよい』

『よしつ、その言葉に違ふまいぞつ』

いきなり平馬は階段をかけあがつた。

廊下を踏み鳴らしておのれの部屋へ轉げ込んで行つたのである。

ホツと溜息をついて新九郎は靜かに階段を降り出した。喧嘩かとをのゝく女中達を、新九郎は手で抑へて、戸外に出て行くのだつた

平馬が息せき切つてひつ返した座敷には、江川の手代、神道無念流の齋藤彌九郎が、老僕と茶を啜つてゐた。

眼の色を變へて、物をも云はず大刀をつゝかんで、そのまゝ飛出して行かうとする平馬に、

『待てつ』

と彌九郎が顏を上げた。

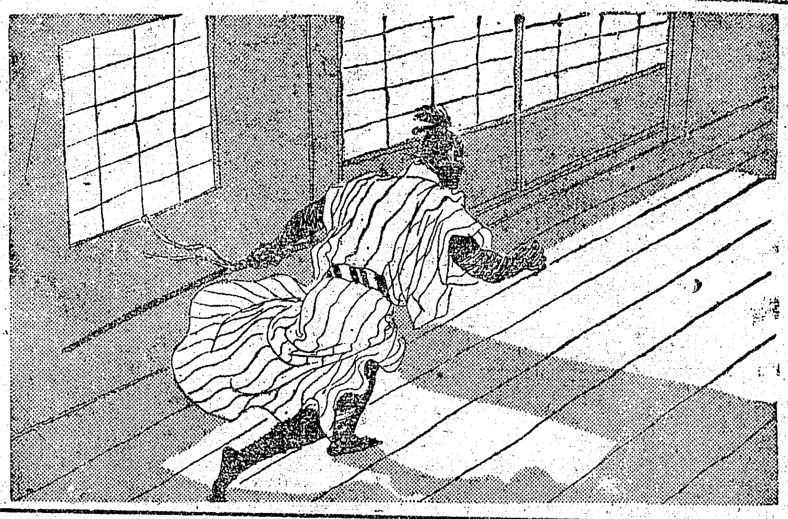
『取り亂して、何處へ行く』

『兄の、兄の仇にはからずもあひましたればつ……』

『まア待て……』

『先生つ、お止め下さるなつ』

平馬は今は心も空に疾風の如き勢ひで、驅け出して行つたのである。



資金を造る早道は
磐城無盡
貯金を造る早道は

肉の御用命は
三二三屋
牛も豚も優良品の肉
平・八間町　電323番

▲男女車掌募集
平市四丁目　鈴木自動車部　電話二一七番

小名濱町小學校前　電四五
産婦人科　外科一般　花柳病科
黒澤醫院
醫學士　黒澤廣
【見習看護婦募集】

看護婦數名募集
高柳醫院
醫學博士　高柳博明
平驛前　電三三六

漢方貼り藥
濕布で名藥　生公華
肋膜、氣管支、關節、神經痛……二圓五十錢
肺炎、ロイマチス、扁桃腺……四圓
炎、ぢ疾に……八圓
專賣店　平市五丁目角　山野邊藥局

債券、公債、両替、金融
多田井質店
平市大工町　電話五九一番

和洋銅鐵、金物問屋
釜屋商店
電九・九九

專門藥　りん病 [illegible]
岩里腸腑藥　一週間分 [illegible]
痛みある病、熱ある病に…
岩里別府散　七包入　五十錢　十五包入　壹圓
製藥本舗　別府市岩里天然堂
代理店　阿康藥局
平市古鍛冶町　電話四四　振替東京三〇〇五六番

附屬産院　産科　婦人科
木村病院（新設）（妊産婦入院隨意）
平市新川町　電一六四

外科　内科　肛門外科　皮膚黴毒科　泌尿科　生殖器科
看護婦及見習看護婦募集
白土醫院
平市鎌田町　電二七九

外科　整形科　内科　内臓科　皮膚科　花柳病科
小名濱町仲町
石井醫院
電一八番

口腔外科　齒科一般
小名濱町本町
鈴木齒科醫院
院長　鈴木正

國民精神總動員
日本國民必見の書……
内閣情報部發行
寫眞週報　一部十セン
お取次致して居ります
平二　西村屋藥局　電三

耳鼻、咽喉科專門
大和田醫院
入院隨意
平市南町　電話一七〇番

曳前のお知らせ
漁船家屋其他動産の移動
土木建築請負
鐵道船舶
仲仕請負
北村芳藏
小名濱町榮町築港地内
—御用命の方は御一報下さい—

▲入院隨時▼
エックス光線科　外科　内臓外科
安齋醫院
院長　安齋徹
平市田町　電四〇七

時局の生んだ新案特許
日の丸習字板（第二八〇五七八號）
使用法…半紙節約ノ目的ニテ墨デ書イテ濡雜巾ニテ拭ツテ置ケバ何囘ニテモ使用出來マス
實用新案　メモ板　第二七九〇四號
野球ベール　第一七九七三號
興亞ノート　第二四七九八號
專賣特許　興亞厚紙　第（イ）一七三六〇號　第（ロ）一七三六一號
合資會社　興亞特許商事
同工場　月見町三三

小兒科　内科
酒井醫院
醫學博士　酒井保
平市南町（電五五番）
◎入院隨時◎

贈つても貰つても喜ばれる
セトモノ　ガラス器　瓶、箸類　等の御用命は
藤屋のセトモノ
驛前通り　藤屋セトモノ店　電話（呼）六一六番

祖先崇拜は
家庭繁榮の礎
佛壇、塗位牌、佛金物
豊富に取揃へてあります
是非當店へ……
山光堂佛具造花店
平市局通り【電話五五〇番】

大小の御宴會にホール
御家族の御同伴に御座敷
何時も材料を吟味して居ります
マルトモ食堂
平市四丁目　電話一二三番

高級林檎酒　ミユキ
釀造元　青森縣弘前市　株式會社　御幸商會
福島茨城販賣元　石井德重商店
久ノ濱町　電話三二番

佛壇と佛具一切
各種豊富に陳列致しました
御用命は　㊍丸ほんへ
【女店員廿才前後の方至急入用】
平市三丁目　電三五九

一台のミシンで浮ぶ家庭の經濟
良いミシン一台買つて衣服更生
追從を許さざる斯界の權威
ミシン界の明星
ミシン界の王座
代表的國産
シンガー　アサヒ　精研舍　ニツポン　トーア　ナシヨナル　ブラザー
迷はず…迷はされずに安心して買へるミシン
◎型錄進呈　¥190=

外交員なし　信用確保　直接販賣
平市驛前田町
常磐特約販賣代理店
シンガーミシン商會

9月の暦
平市各方面行事

△九月一日（月）興亞奉公日、關東大震災記念日、推進員講習會（市公會堂）各學校第二學期始業式、二百十日
△二日（火）戊辰役戰死者追悼會（良善寺）
△五日（金）家屋稅調査委員選擧
△六日（土）舊盆十四日、日食
△九日（火）共同炊事指導講習會（平市）
△十一日（木）防空展覽會本日より十七日迄（平市公會堂）
△十三日（土）乃木祭、司法保護日
△十五日（月）海軍兵志願者募集懇談會（平市）
△十八日（木）滿洲事變記念日
△二十一日（日）日食
△二十二日（月）石城郡常會（市公會堂）
△二十三日（火）平市常會（市公會堂）秋季皇靈祭

◎　◎　◎

施政方針發表
猪瀬市長の第一聲

昨廿九日の平市會で第一聲を擧げた猪瀬市長は『私は着任日尙淺く市政については深く知らない、然し渾心の努力を拂つて平市のため盡すつもりである』と前提、卒直に施政方針の一端を述べ、川崎議員並に數氏から希望事項と鞭撻の言葉があり、市會に好印象を與へた、猪瀬市長の施政方針概要次の如し

施政方針

躍進平市の根底を培ひ基礎强固なる近代都市としての大平市建設に邁進せんとす

方策

一、市政發展策

1　工場誘致、强固なる財政力は市勢發展に不可缺の要件なり從て將來極力工場の誘致に努め市財政力の根底を培養し戶口增加に伴ふ諸般の施設の完備に力めんとす

2、隣接町村合併、市勢の發展には地域の擴張が必須の要件なり故に將來隣接町村の合併に努め大平市建設の目的達成に力めんとす

一、教育の振興策

國力の伸張も市勢の發展も共に其の根基は子弟教育の力に俟つは論なし、故に將來教育施設の完備に最善の努力を傾到せんとす

就中前理事者に依つて計畫された第五國民學校の建設及市立高等女學校の設置は本年度の事業に屬し敷地買收を始め諸般の手續き未了なるを以て速に委員諸氏の協力を求め、萬難を排し事業完遂に力を致さんとす、尙市民教養の機關たる市立圖書館も將來之が實現に付考究せんとす

一、保健衞生施設實現

市民の健康增進及衞生に關する施設は市勢發展上必要事項に屬し、市街地を美化し住み心地良き都市を建設する爲將來左の施設を考究之が實現を期す

イ、塵芥處理場の完備

ロ、市民グランドの設備

ハ、下水道の設備

一、都市計畫事業遂行

市街の體形を整ひ近代都市を建設するには都市計畫法に基きこれが施設を必要とす近き將來に於て實施計畫の完了を俟つて事業を遂行し目的達成に努めんとす

一、土木交通に關する施設

1、本市根本治水策たる新川改修工事は諸般の事情に依り其進行遲々たる狀況にあるを以つて其の筋に陳情しこれが促進達成を圖らんとす

2、六號國道改良事業の完遂は地方發展上に寄與する重要問題に屬するを以て關係市町村と相協力し其の筋へ陳情之が促進を圖らんとす

3、市內及周邊に存在する國縣道、中小河川等にして改修の要あるものは其の筋に改修を陳情し促進に努め又市道路橋梁は財政を勘案し容す限り之が完備に努め產業の發達に資す

一、銃後强化施設

1、軍人遺族、出征軍人家族に對しては物心兩面より必要なる援護を與へ生活を安定せしめ以て銃後を强化すると共に出征軍人をして後顧の憂ひなからしめ聖戰完遂に努めんとす

2、商工業對策、時局の影響を受け轉業の余儀無き事情に立至つた商工業者救濟については國及縣の施策に順應し其の連絡を緊密にし之が對策を講ぜんとす

3、農業生產對策、出征、徵用、徵發に依る農村の勞力不足及肥料配給不足は米麥其の他主要食糧生產上に及ぼす影響深刻なるものあるを以つて國縣の施策に呼應し增產確保に力を致さんとす

◇……◇

以上は現在及將來の施策の大要を示したるに過ぎず、現下國際政局緊迫化に鑑み警防の强化、防空施設の整備等國土防衛の諸般の必要をも痛感する處なるを以て、能く市財政を勘考して緩急良しきを制し之が實現を圖り以つて平市勢發展向上の成果を擧げんことを期する次第であります。

市參事會員
常設委員も決定

市會議員の任期が一ケ年延期された結果、市參事員及各常設委員も當然改選されることになり、參事員は抽籤に依つて定め議長指名形式で十名選び、常設委員は各派交渉を擧げて折衝の上次の如く推薦された

市參事會員 金子政通、山野邊義政、荒川淺次郎、大谷武雄、吉田五平、吉田寅之輔、川崎文治、永山勇吉、高橋龜松、鈴木庄之助

土木委員 吉村安治郎、鈴木庫左右、永山勇吉、吉田寅之輔、矢吹初彌、矢吹龜作、山野邊義政

水道委員 佐藤幸太郎、吉村安治郎、大嶺庫、菅本庄治、多田井笑次郎、鈴木彌太郎、吉田五平

學務委員 萩原義雄、金子政通、川崎文治、藤田榮助、多田井笑次郎、酒井清

警防委員 佐藤幸太郎、大谷武雄、鈴木庫左右、萩原義雄、酒井清、鈴木彌太郎、高橋龜松

◇傳染病豫防委員 矢吹初彌、荒川淺次郎、大嶽庫

英靈を追悼
九月一日公會堂で執行

平市銃後奉公會では一日午後一時から公會堂に舊盆恒例の戰歿英靈追悼法會を開く、當日は佛教同志會、神職、傷痍軍人會、軍人援護會、鄕軍分會、各官衙長、婦人團体、警防團靑壯年隊、學校、方面委員、區長、市議など各關係者參列

△英禮に對し敬禮△開式の辭△讀經△會長の追悼文△市長遺族の燒香△遺族代表の挨拶

終つて遺族に供物を贈呈することになつた

殉職團員
慰靈祭執行

平署では舊盆十五日に當る來月六日午前十時から管內關係者參列平市公會堂に管內警防團員（元消防組員も含む）殉職者並に戰死戰歿者約八十名の慰靈祭を佛式に依り執行することになつた

遠洋船尻目に
鰹の大豐漁
加工業も俄に活況

舊盆も押迫つた二十七日鰹漁群の接近をねらつて小名濱港の轉頭船（近海に鰹が押寄せた頃毎年出漁する鰹漁船より小型の補助船）飛田丸、彌市丸が出漁し兩船共約一千圓宛の好漁に惠れたのに刺戟されて二十八日はハモ船、及び揚繰船の手船が約十隻遽仕立の鰹船となつて出漁した結果五六百圓位宛の漁獲があり昨二十九日は好漁で最高一千圓から四五百圓の大漁で舊盆を前にして時ならぬ活況を呈してゐる

沿岸の鰹漁は數年來の惠れ方で、本年の如く大型鰹船の迎鰹絕無の折柄、丸和共販所及び罐詰所など大喜びで轉手古舞の活動を續けてゐる

參事員歡迎

縣參事會員一行は既報の如く出納檢査のため三十一日來平するが猪瀬市長、久和署長等發起人となり同日午後五時半より谷口樓で歡迎晩餐會を開催する、會費五圓

防空展こ
指導者協議

平署では來月十一日から一週間開催する防空指導展覽會に先立ち三日午前九時から平署に各方面の關係者約五十名を招き縣から警防課長臨席し、防空打合會を開くことになつた

〃戊辰戰爭〃語る
文協座談會二日夜開く
一般來聽歡迎

磐城文化協會では既報の如く「戊辰の夕」を催すことになり、九月二日午後七時から公會堂日本間で、平市長猪瀬乙彥、城山の眞木鏘吉翁、前市長靑沼鋒太郎、前磐中敎諭廣田德行四氏の話を聽くことになつた、四氏は何れも平安會員即ち舊藩士であつて、その祖先は戊辰の役に參加したものであり、臨戰態勢下の今日、當時の平の市街戰に就いて語り合ふ事は單なる興味の問題ばかりでなく我等は萬一の場合いかなる用意と覺悟とが必要であるか、に就いても學ぶ點が多からうといはれてゐる、當夜は一般人の來聽を歡迎、多數市民の傍聽者を希望してゐる

鈴木伍長
三日玉川へ凱旋

小名濱町大字島（舊玉川村）出身鈴木次郎伍長は中支戰線に華々しく戰死したがこの程原隊へ凱旋九月二日原隊で合同慰靈祭擧行され同三日午後六時四十七分湯本驛着で無言の凱旋するが各種團体一般有志は野田待合所迄出迎へ第三校（玉川校）庭に一般の燒香を行つて散解の豫定

石炭種に
三万圓詐取

平市仲町三三生れ內鄕村大字宮字鬼澤川音英久（四〇）平市仲町坂島志郎（四七）の兩名は三年前頃から內鄕村三友炭礦內鄕礦業所を共同經營してゐたが事業資金に窮し既に豐間町鈴木輝雄氏外九名と昨年三月から來年二月までの賣炭契約し約四百トンを發送、同礦出炭量ではこの上賣炭契約出來ないのに拘らず埼玉縣川口市牛込菊藏氏、東京市麻布區竿町及川政友氏、平市片倉製絲工場等二十數名に對し月百トン乃至百五十トンを發送すると稱して約三萬圓を詐欺、平署で取調中であつたが今三十日書類を送局した

平城の古圖
眞木翁讚美の逸品

平城の古圖面は先般吉田美風氏に依つて發見されたが、最近城山の眞木翁が某家から借り入れた平城古圖は、鳥居侯が築城當時のものを寫したもので、疊八疊敷の大きさに色彩を施した立派なものである、眞木翁は語る

私の見た中では一番古いもので完全なものである、一体城の中は好く書いてないのが普通なのにこれは實に好く城內を書いてある、新川町や古川等が書いてないし、大手門から本丸にゆく所に橋があるのも珍らしい、堀の深さ、垣の高さ等も詳細に書いてある、戊辰の役當時の平城の樣子とは大分變つてをる

見事二科へ入選
熊坂君地方画壇に氣を吐く

一日から上野美術院に開かれる二科展覽會の入選は昨二十九日發表されたが本縣關係三名の內に石城郡內鄕村大字濱井場磐城炭礦綴坑採炭技工熊坂太郎君が初入選し、昨年平市一丁目高瀨勝男君の入選に引續き地方洋畫壇に氣を吐いた

初入選の熊坂君は平市五丁目熊坂德氏の長男で昭和六年磐中卒業、在學中同校の繪畫X會の主要メンバーとして重きを爲し、美術學校を志して上京したが資力の關係から容れられず同七年現在の磐炭に入社好きな繪筆に自らを慰めてゐた二科への出品は今度初めてゞ〃神社〃、〃斜坑〃の二點出品、第一回目で見事入選したもの、磐炭の坑務所へ電話すると先輩の靑山氏は喜んで語る

磐中X會時代から秀れた畫才を持つてゐたが最近の進步は目ざましいものがあり私達の繪はとても及ばない磐炭から入選者を出したことは自分事のやうに喜ばしい

暖い心やり
舊盆に助成會の計画

平市方面委員會は今三十日午前九時から市會議事堂に開き舊盆に際し社會事業助成會から市內貧困者八十八戶に對し最高七圓から二圓合計三百十八圓五十錢の暖い給與金を贈ることとになりまた盂蘭盆十一日の二日は市吏員並に方面委員が磐中西側にある無緣佛の供養し更に盆十四日の五日には市吏員が戰歿勇士遺族を訪れ懇ろに慰問することに決定した

口碑傳說
（12）

人身供御傳說
丹後澤奇譚
人柱となり堤を防ぐ

磐城民俗研究會
石城郡誌資料

人柱傳說

◎丹後澤

平市舊城跡に丹後澤といふ澤がある。昔平城主鳥居侯が築城の際此處を流れてゐた後澤といふ澤の流をせきとめてつくつた澤といふ。すでに工を起して三度迄も堤を築いたが大雨毎に押流されてしまふ。卜者を召して占はしめたところ、この沼には大龜すみ雨水に乘じて夏井川との間を往復してゐたのに今水をせき止められたために怒つてゐる。人柱を立てたがよからうとの事であつた。侯はこれを信じ八十歲以上の老人を國中に求めたところ菅波村の丹後といふ農夫が現れた。年は九十五歲であつた。堤防の工事を委ねられた丹後はこれは自分に人柱になれとの仰せならんと察し自分は齡もすでに傾いたもの故何の望もない潔く人柱にならうと決心した。侯に向つて工事成就の曉はせめてこの澤を丹後澤と名づけていただきたいと嘆願した。侯はあはれに思つて丹後の孫彌藏を士分に取立てることをも約し酒盃を賜つた。やがて身をとゝのへた丹後は自ら深谷に飛入り扇を拔いて千秋樂を舞ひつゝうたつたが。上に居た人夫は一齊に土砂を落して生埋めにした。以上は大體磐城略記にのせた所であるが爾來堤防の決潰は無くなつたと傳へ今に時々丹後の慰靈祭が催される。

この傳說に附帶して次のやうな話が傳つてゐる。丹後には娘があつたが——他へ嫁いだが——妹ともいふが——啞の如く默つてばかり居る。婚家でも手をやいたものか舅が彼女を實家にもどすべく連れて行つたが途中雉子が鳴いたので之を打落した。これを見た彼女は父は丹後の人柱雉子も鳴かずば打たれまいと口ずさんだので舅は非常に驚いて再び彼女をそのまゝ連れもどつたといふ。以上の話に關聯せしめて人柱の事をはじめに言ひ出したのは丹後であり、言ひ出した彼が止むなく後に人柱に立たねばならなかつたのだとも語られてゐる。この點多くの人柱傳說と似通ふ點があり、次のをな橋の話も同樣である。

◎をな橋

上遠野村の小學校より程遠からぬ處にあるをな橋は昔は洪水で流されてばかりゐた。或時も村人が土手を築いてゐる所へ一人の小女が通りかかつて、谷間から落合ふ水が强いから橋はいくら架けても駄目でせうと云つて人柱を立てる事をすゝめた。一同も成程と感じて領主に申出たが適當な人が無く遂にかの言ひ出した少女が申附けられる結果となつた。少女は歎いたが爲ん方もなくたゞ父母のために永代上納を免ぜられて、人柱に立つた。時々女の泣聲が橋の下から聞えることがあるといふ

おちの良い
マルミ石鹸
平市材木町二
製造元マルミ本舗

重油節約試驗

小名濱水產會では石城各濱の漁業關係の來會を求め九月一日午後一時より江名町江名鐵工所に漁船發動機の重油節約效力試驗を實施することと成り各濱組から多數出席する

病苦の縊死

双葉郡大久村大字小久字田中農强口治郎太（五六）は永らく神經病で靜養してゐたが去る二十六日夜家出したまゝ歸宅せぬので家人が搜査の結果同字地內柳澤山林中に縊死してゐるのを二十七日午後七時頃發見した

青年怪賊
懲役一年半

去る九日午前一時ごろ平市三丁目丸三果實店に忍び込み發見され屋根を飛び廻つてゐるうちに隣組員總出動で逮捕した小名濱町叶港野崎貞行方漁夫齊藤次男に係る竊盜事件の公判は二十九日平區に開延懲役一年六ケ月の判決言渡しがあつた

奉公日
隣組の心得

大政翼贊會平支部では明後一日の興亞奉公日について今三十日各區內會長宛

同日午後八時半から五分間ラジオを通じて田邊內務大臣の講話及び引續いて放送になる本縣重枝振興課長の講話を隣組常會で聽取し生活全面に亘る單純化戰時食糧の擴充家庭資材の戰時的活用への心構を一層効果的にならしむる樣通牒を發した

海技免狀
十八名へ傳達

四倉濱を中心とした双沿岸漁業關係者の臨時船舶職員試驗の結果は今卅日發表新井武夫氏外十七名の合格者に對し海技免狀の傳達式を午後一時より四倉漁業組合で執行した

立川檢事
山形へ榮轉

平檢事局上席檢事立川鍹夫氏は山形檢事局へ榮轉した

同氏は昭和十五年一月阿濃津檢事局から轉じ一年八ケ月間名檢事の譽れ高かつた

チブス收容

平市長橋町稔巳長男仲里靖ちやん（三）は今三十日腸チブスと決定

葬儀費節約

平市舊城跡新妻善吉さんは養女ミサ子さんの葬儀費用を節約して今三十日市銃後奉公會へ金二十圓を寄附

今晚のラジオ

（三十日夜の部）

◆六・〇〇 「音のききわけかた」東德行外、△シンブン

◆六・三〇 「ドイツに於ける代用品の發達」木村捨象

◆七・二〇 政府の時間「戰時下の映畫」川面情報局第五部長

◆七・三〇 われらのうた「南方の歌」德山璉、日本放送合唱團

◆七・四〇 文化演藝「暴風雨」（八住利雄作）淸水一郎、根本淳、水乃瀨和子、外

◆八・〇〇 漢口俘虜收容所（支那派遣錄音班七三報）

◆八・一五 舞台劇「ひらかな盛衰記」中村福助、大谷友衛門、市川男女藏、外

◆九・一〇 講演「佛印における皇軍の活躍」大本營陸軍報道部員陸軍少佐中島鉛三

天氣豫報

今晚 北東の風晴れたり曇つたり

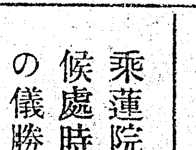
明日 北東の風後南東の風晴れ後曇り俄雨がありませう

（三十一日）

滿潮 前…… 後一〇、三五

干潮 前四、三五 後……

商況



（三十日）

【野菜】

ナス	五錢
胡瓜	三錢
大根	三錢
南瓜	六錢

謹告

肅啓　殘暑之砌益々御多祥之段奉賀候

陳者時局下重大なる狀勢に鑑み輸送陣强化の必要を痛感し我々同業者相計り企業合同を企畫し今般平貨物自動車運送有限會社を設立し來る九月一日より營業開始仕り候

就ては公益優先をモツトーとし職域奉公の任を盡し物資輸送に萬全を期し從前の御愛顧に報ゆる覺悟に御座候へば何卒倍舊の御引立を賜り度奉懇願候

先は御挨拶申上度く斯の如くに御座候　敬具

昭和十六年八月三十一日

平市字大町一二番地
運送有限會社
平貨物自動車
電話三九番

取締役社長 金成國雅
取締役 石井佐善
取締役 佐川辰次郎
監査役 早川重治
監査役 大木友美
社員 橋本辰雄
社員 加賀藏之助
社員 古川龜太郎

故鈴木健太郎儀新盆に相當り居り候處時局柄提灯其他の供物等の儀は堅く拜辭仕候間御諒承被下度候

平市田町
鈴木治代

故三浦與五郎儀新盆に相當り居り候處時局柄提灯供物等の儀は堅く拜辭仕り候間御諒承被下度候

平市新田町
三浦富美男

乘蓮院殿新盆に相當り居り候處時局柄提灯並に供物等の儀勝手ながら拜辭申上候間何卒惡しからず御諒承被下度候

八月三十日
平市南町
山崎元三郎

宜昌院儀新盆に相當り居り候處時局柄提灯供物等の儀堅く御辭退申上候間何卒御諒承被下度候

八月三十日
平市材木町
吉田尙

天德院新盆に相當り居り候處時局柄供物其他一切堅く拜辭仕候間此段御諒承被下度願上候

八月廿九日
田町
金子重次

香華院儀新盆に相當り居り候處時局柄提灯其の他の供物等の儀は堅く拜辭仕候間御諒承被下度候

八月二十九日
平市南町十二
酒井保

淨操院儀新盆に相當り居り候處時局柄提灯供物等の儀は堅く拜辭仕り候間御諒承被下度候

八月廿七日
十五丁目
三井